

ANTENNA

2026年入試への万全の対策

全統共通テスト高2模試

今年度の大学入学共通テストは495,171名の志願者を集め、この1月に実施されました。みなさんが受験する来年のこの時期に向けて、目標達成の夢を抱いて果敢にチャレンジできるよう一足早いスタートを期待しています。

115,216名が受験した全統共通テスト高2模試の成績結果「ANTENNA」をお届けします。日々の学習の成果が実を結んだ科目・分野はありましたか？逆に得点に結びつかなかったところも発見できたと思います。それらを整理して今後の学習計画を立てるためにこの冊子を活用してください。

も く じ

見直しシート	2
個人成績表の見方	3
成績統計資料	7
総合成績表	7
科目別成績表	8
教科科目別設問別成績表	10
設問別正答率表	14
学習対策	18
英語	18
数学	19
国語	19
理科	20
地理歴史	23
公民	24
情報	25
お詫びと訂正	26
お問い合わせ先一覧	27

* 本冊子の編集内容の無断転載・複製を禁止します。

全統模試 見直しシート

STEP 1

個人成績表「1. 成績概況」を確認し、受験した教科・科目と得点を書き込みましょう。

STEP 2

個人成績表「3. 設問別成績」の、あなたと同じ学力レベル層や、第1志望校の一段階上の判定者との成績比較で差が見ついた設問を確認し、弱点となっている分野を書き込みましょう。

STEP 3

弱点分野を中心に、「学習の手引き」や本冊子の「学習対策」、模試ナビの解説講義動画などを確認し、今回の模試の反省点と、今後の具体的な対策（何を、いつまでにやるのか）を書き込みましょう。

STEP 4

個人成績表「2. 志望校別成績・評価」を参考に、次回の模試の目標得点を書き込みましょう。

STEP 1		STEP 2	STEP 3		STEP 4
教科・科目	得点/配点	弱点分野	今回の反省点	今後の対策	次回の目標得点
(例) 英語	52/100	文法・語法	基本的な文法の理解ができていない	次回の模試までに文法集の11～30ページをノートにまとめて復習する	65/100
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/

個人成績表の見方

各項目について、詳しくはP.5～6をご確認ください。

1-(1) 成績概況

自分の学力状況や全国での位置づけを確認しましょう

- 各科目の得点や偏差値、順位、平均点などを表示しています。

1-(2) 合格可能性評価用成績

合格可能性評価の算出に利用する成績を表示しています。

- 共通テスト換算得点：今回の模試の得点を、直近の大学入学共通テストの得点に換算したものです。
- 私大評価用偏差値：数学と国語の偏差値を表示しています。（志望大学の入試科目に応じて利用します）

教科・科目	あなたの成績 / 偏差値			全国			都道府県内			校内		
	得点	偏差値	順位	平均点	偏差値	順位	平均点	偏差値	順位	平均点	偏差値	順位
英語	74 / 100	60.9	A	49.3	34613 / 20305	47.7	26385 / 183733	57.2	60.8	81 / 310	76 / 100	79 / 100
リスニング	52 / 100	51.7	C	49.2	76579 / 198485	48.0	63487 / 179775	46.0	55.9	188 / 309	88 / 100	89 / 110
英語＋リス	126 / 200	57.4	B	98.7	47427 / 198079	95.9	37235 / 179387	53.1	116.7	119 / 309	18 / 45	20 / 45

全統共通テスト上高2模試「個人成績表」第1面（秘）

教科・科目	あなたの成績 / 偏差値			全国			都道府県内			校内		
	得点	偏差値	順位	平均点	偏差値	順位	平均点	偏差値	順位	平均点	偏差値	順位
英語	74 / 100	60.9	A	49.3	34613 / 20305	47.7	26385 / 183733	57.2	60.8	81 / 310	76 / 100	79 / 100
リスニング	52 / 100	51.7	C	49.2	76579 / 198485	48.0	63487 / 179775	46.0	55.9	188 / 309	88 / 100	89 / 110
英語＋リス	126 / 200	57.4	B	98.7	47427 / 198079	95.9	37235 / 179387	53.1	116.7	119 / 309	18 / 45	20 / 45
数学ⅠA	68 / 100	62.6	A	44.2	11044 / 150017	42.6	11890 / 154014	51.5	51.8	37 / 303	98 / 100	99 / 110
数学ⅠB	64 / 100	64.4	A	53.4	12541 / 139202	51.3	8106 / 125539	61.8	65.8	30 / 299	78 / 100	79 / 100
数学Ⅱ	150 / 200	64.1	A	98.1	13587 / 142099	94.4	8745 / 128301	82.5	117.8	26 / 298	48 / 60	49 / 60
国語	104 / 200	57.8	B	81.7	41310 / 100553	79.8	32065 / 122290	54.0	65.0	110 / 309	58 / 100	59 / 100
英数国総合	60.7	A	20768 / 40028	—	—	—	—	—	—	—	—	—
物理	65 / 100	59.0	B	48.9	10951 / 60221	47.1	7482 / 51700	53.5	59.5	49 / 140	78 / 100	79 / 100
化学	57 / 100	53.4	C	40.5	29744 / 79787	43.0	18813 / 58816	49.6	52.7	82 / 181	77 / 100	78 / 100
地歴・公民	55 / 100	61.0	A	39.2	7159 / 52758	37.5	4480 / 45784	58.7	44.5	35 / 197	77 / 100	78 / 100
情報	52 / 100	51.1	C	49.9	28789 / 160017	50.3	28897 / 144915	50.7	50.1	146 / 299	77 / 100	78 / 100
総合	604 / 1000	58.2	B	501.6	12271 / 71028	481.8	8876 / 61851	57.5	59.5	43 / 187	77 / 100	78 / 100
総合	614 / 1000	61.0	A	15785 / 34653	—	—	—	—	—	—	—	—

教科・科目	偏差値	平均点	順位
英語	76 / 100	79 / 100	81 / 310
リスニング	88 / 100	89 / 110	188 / 309
英語＋リス	18 / 45	20 / 45	119 / 309
数学ⅠA	98 / 100	99 / 110	37 / 303
数学ⅠB	78 / 100	79 / 100	30 / 299
数学Ⅱ	48 / 60	49 / 60	26 / 298
国語	58 / 100	59 / 100	110 / 309
化学	78 / 100	79 / 100	49 / 140
物理	78 / 100	79 / 100	82 / 181
地歴・公民	77 / 100	78 / 100	35 / 197
情報	77 / 100	78 / 100	146 / 299
総合	720 / 1000	—	—

第1志望	
合格可能性	720点
ボーダーライン	782点
偏差値	60.9
順位	81位
教科・科目	英語 76 / 100
	リスニング 80 / 100
	国語 54.6 / 128 / 200
	物理 54.7 / 146 / 200
	地歴・公民 52.6 / 77 / 100
	情報 55.0 / 56 / 100

志望校	偏差値	平均点	順位
東京科学大学	60.9	74 / 100	81
筑波大学	58.4	70 / 100	100
法政大学	58.4	70 / 100	100
中央大学	58.4	70 / 100	100
立教大学	58.4	70 / 100	100
清泉女子大学	58.4	70 / 100	100
共立女子大学	58.4	70 / 100	100
聖光学院大学	58.4	70 / 100	100
聖徳大学	58.4	70 / 100	100
聖心女子学院	58.4	70 / 100	100
聖マリア学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖イザベラ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院	58.4	70 / 100	100
聖アグネス学院	58.4	70 / 100	100
聖バルバラ学院	58.4	70 / 100	100
聖エリザベス学院	58.4	70 / 100	100
聖カタリナ学院	58.4	70 / 100	100
聖ルチア学院	58.4	70 / 100	100
聖アンナ学院			

個人成績表の見方

各項目について、詳しくはP.5～6をご確認ください。

3 設問別成績

分野ごとの成績や、どの分野でライバルと差がついたのかを確認しましょう

- 各科目の設問別の成績や、成績を基にした学習アドバイスを表示しています。
- あなたと同じ学力レベル層(S~Fレベル)の平均点とあなたの得点を比較して、最も良かった設問に○、悪かった設問に▲を表示しています。
- 第1志望について、あなたの評価より一段階上の判定者との成績比較を表示しています。

4. 正答・誤答マーク読み取り状況

具体的にどの問題でつまづいたのか、マークの塗り間違いはなかったか確認しましょう

- 問題ごとのマーク読み取り状況と正誤状況を表示しています。

全統共通テスト高2模試 個人成績表 第2面【秘】

内容	得点/配点	全国平均点	校内平均点	平均点	差	得点率の差	設問別バランス(得点率)	第1志望との成績比較	平均点	差
1 読解一情報	7 / 10	6.8	7.6	7.5	-0.5	-5.0%	Aレベル	1	7.8	-0.8
2 読解一資料	15 / 20	13.9	14.5	15.2	-0.2	-1.0%		2	15.3	-0.3
3 読解一記事	6 / 10	6.5	7.5	8.3	-2.3	-23.0%		3	8.0	-2.0
4 読解一図表	14 / 16	8.1	10.1	14.3	-0.3	-1.9%		4	14.1	-0.1
5 読解一伝記	12 / 20	12.9	14.3	16.9	-4.9	-24.5%		5	16.3	-4.3
6 読解一論説	20 / 24	11.8	13.6	18.5	1.5	6.3%		6	18.8	1.2

絵・図・楽譜を説明している英文を丁寧に読み、内容を把握をして選択肢を検討しましょう

全統共通テスト高2模試 個人成績表 第3面【秘】

内容	得点/配点	全国平均点	校内平均点	平均点	差	得点率の差	設問別バランス(得点率)	第1志望との成績比較	平均点	差
1 読解一情報	7 / 10	6.8	7.6	7.5	-0.5	-5.0%	Aレベル	1	7.8	-0.8
2 読解一資料	15 / 20	13.9	14.5	15.2	-0.2	-1.0%		2	15.3	-0.3
3 読解一記事	6 / 10	6.5	7.5	8.3	-2.3	-23.0%		3	8.0	-2.0
4 読解一図表	14 / 16	8.1	10.1	14.3	-0.3	-1.9%		4	14.1	-0.1
5 読解一伝記	12 / 20	12.9	14.3	16.9	-4.9	-24.5%		5	16.3	-4.3
6 読解一論説	20 / 24	11.8	13.6	18.5	1.5	6.3%		6	18.8	1.2

Web上で全問模試の得意や成績推移などができるサービスです。
 全問模試によるわかりやすい解説動画も視聴可能！今回の模試で出題された問題を解説していますので、間違えた問題は必ずチェックして理解を深めましょう。
 個人成績や答案、問題の解説や詳しい学習アドバイスも閲覧可能！いつでも、どこでも、復習のポイントを確保することができます。

河合塾 国語 大問番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14
 解答番号
 正誤 ○ ○ ○ × × × ○ ○ × ○ × ○ ○ ○
 マーク 2 4 2 1 4 3 2 3 3 3 1 2 3 4

個人成績表の見方＜注釈＞

1-(1). 成績概況

■学カレベルの定義は以下の通りです。

S : 偏差値 65.0 以上	D : 偏差値 45.0 ~ 49.9
A : 偏差値 60.0 ~ 64.9	E : 偏差値 40.0 ~ 44.9
B : 偏差値 55.0 ~ 59.9	F : 偏差値 40.0 未満
C : 偏差値 50.0 ~ 54.9	

■得点欄の*印はその科目の学力に対する注意を表します。その科目の偏差値が、あなたの受験した科目の偏差値の平均値より5ポイント以上下回る場合に付されます。

■総合成績には、英数国総合、「総合1」（受験型別）、「総合2」（文理別）の3種類があります。このうち総合1の「国理6-8型、国文6-8型、国公6-6型」以外は、すべて教科の偏差値の平均を用いて順位づけを行います。これは、各教科の成績（母集団内での位置）を考慮しながら、総合成績を評価するという方針によります。したがって、各教科の成績評価の尺度として偏差値を採用し、それらを総合して評価する際に、それらの平均を取るという方法で順位づけを行います。

■英数国総合は、英数国3教科以上を受験したすべての受験生が母集団です。偏差値は、英語の偏差値、数学①と数学②の偏差値の平均値、国語の偏差値の平均値です。

■総合1は受験型別により、次の各型の母集団内での位置づけを表します。

1型：国理6-8型（英語+L、数学①、数学②、国語、理科2科目、地理歴史、公民1科目、情報）

2型：国文6-8型（英語+L、数学①、数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民2科目、情報）

3型：国公6-6型（英語+L、数学①or数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民1科目、情報）

4型：私立理系型 英語（リーディング）・数①or数②と理(1)または情報から1-2の3-4教科の偏差値の平均値

5型：私立文系型 英語（リーディング）・国語と情報、数①or数②、地理歴史、公民のいずれか3-4教科の偏差値の平均値

・「リスニング」未受験の場合は「英語」の成績を用いて集計します。

・3型は1型、2型を含んだ母集団によるものです。

1型から3型の偏差値は総合得点による偏差値、4型、5型の偏差値は各科目の偏差値の平均です。また、4型、5型は4教科以下の受験者を対象とし、英語はリスニングを含まない成績を利用します。

■総合2は、文理別の位置づけを表します。

文系は英・国・「数or地or公」から2-3教科、理系は英・数・理から2-3教科の偏差値の平均です。

・文系または理系の区別は受験届の「文理別」欄のマークによります。未マークの場合は、最も高い志望順位にマークした国公立大学（マークしていない場合は私立大学）の文理区分によります。

・数学の偏差値は、①②両方を受験している場合は①②の平均を用います。片方のみを受験した場合は、その科目の偏差値を用います。

・理科、地理歴史、公民を複数科目受験している場合は、偏差値の高い科目を採用します。

■数学、理科、地理歴史、公民において、選択科目のマーク漏れなどにより選択科目が特定できない場合、最も正答率が高い科目を採用するとともに、科目欄に「#」を表示します。

■校内成績の母集団は、在籍高校です。また、偏差値は母集団が20名以上の場合のみ表示します。校内順位は、全国偏差値をもとに順位づけしています。

1-(2). 合格可能性評価用成績

■来年度入試において大学入学共通テストを課す大学については、共通テスト換算得点による合格可能性評価を行います。詳しくは、個人成績表の第4面の説明を参照してください。

■私大評価用偏差値は、私立大の合格可能性評価に使う数学と国語の偏差値です。数学と国語は、より正確な学力評価を行うため志望大学の出題科目・範囲に合わせて合格可能性評価を行います。

・数学は、数学①（I A、I）のみ受験した方は数学①、数学②（II B C）のみ受験した方は数学②の偏差値が数学（1科目）の欄に表示されます。数学①②両方を受験した方は数学（1科目）の欄には数学①、数学（2科目）の欄には数学①②の偏差値が表示されます。（数学I Aまで課す大学は、数学①までの成績で判定します）。

・国語は、3種類（現代文のみ（110点）、現代文・古文（155点）、現代文・古文・漢文（200点））の偏差値が表示されます。

・数学・国語以外の教科については「1-(1)成績概況」に表示された、各科目の偏差値を使用します。

2. 志望校別成績・評価

■河合塾の合格可能性評価は、模試ごとの志望者分布だけでなく今年度の全体志望動向等を含めて予想しています。

詳しくはこちらの該当模試のページからご確認ください。

www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/

■「定員」は、4年制大学および短期大学は募集人員、専門学校などは入学定員を表示しています。

・非公表の場合は河合塾推定で“*”を付しています。

・大学が若干名と公表している場合、もしくは、設定できない場合、募集人員を“0”と表示しています。

■志望した学部・学科の中で、第1志望者内での集計と総志望者での集計を行い、「順位」「平均偏差値」または「平均換算得点」を表示します。

・第1志望は、国公立大については前期、中期、後期の各日程内で最も志望順位の高い出願予定校の志望者を、私立大については私立大の中で最も志望順位の高い大学の志望者を集計対象としています。

・第2志望以下の大学・学部・学科における「第1志望者」欄の順位は、第1志望者の母集団に当てはめた場合の順位です。

■合格可能性評価

・志望大学に必要な教科・科目を1科目も受験していない場合は、合格可能性評価欄に「G」のみを付し、A~Eの評価は表示されません。

・理科、地理歴史、公民の第1解答科目優先は対応していません。

・志望大学に必要な教科・科目を一部受験していない場合は、国公立大、共通テスト利用私大・短大は不足科目を0点として扱い、一般の私立大・短大などは、受験している科目で評価偏差値を計算して評価を行い、合格可能性評価欄にG付きの評価（例：BG、CGなど）を表示しています。



・合格可能性評価は、それぞれ次の意味を表します。

- A：合格可能性評価80%以上…今のところ合格圏にあります。このペースで頑張りましょう。
- B：合格可能性評価65%…油断大敵。合格圏へもうひとふんばりです。
- C：合格可能性評価50%…ボーダーライン。合格圏めざして頑張りましょう。
- D：合格可能性評価35%…これからの努力で、まだまだ伸びます。大いに頑張りましょう。
- E：合格可能性評価20%以下……再検討を要します。学習法を一考しましょう。
- G：教科・科目数の不足…志望大学入試に必要な教科・科目を受験していません。理科の「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」2つを課している大学を志望しているが、理科の「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」を1つしか受験していない場合、「G」が付されるが、得点・偏差値は、評価に反映されません。
- H：範囲不足…以下のいずれかの場合表示されます。
一般入試私大において英語（リスニング）、または数学の範囲が不足している場合。
なお、選択科目がある場合、国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合は、換算得点の高い方、私立大・短大・専門学校などの場合は偏差値が高い方の科目を通常は用いますが、一方の科目が範囲不足となっている場合は、成績に関わりなく範囲不足になっていないもう一方の科目を用いて合格可能性評価を行います。
- *：英・数・国・理・地公・情報の教科試験が課されない等の理由により、合格可能性評価を行いません。

■評価別人数

- 第1～第4志望には「評価別人数」グラフを表示しています。黒く塗られた得点（偏差値）帯があなたの位置を表しています。人数はそれぞれの得点帯または偏差値帯の人数です。各合格可能性評価の下限値となる得点帯または偏差値帯の左に評価を表示しています。
- ・第1～第4志望のグラフの母集団は国公立大は出願予定者、私立大（共通テスト利用私大・短大含む）は総志望者です。国公立大の場合は、出願予定以外の志望において、あなたの成績と同じ成績の方が第1志望の母集団にいない場合（人数が0人の場合）は、当該箇所に「*」を表示しています。
- ・第5～第9志望の評価基準は下記 URL から確認できます。
www.kawai-juku.ac.jp/moshi/h

・BF（ボーダーフリー）とは、ボーダーラインが設定できなかった大学の募集区分（不合格者が少ないため、合格率50%となるボーダーラインがどの偏差値帯においても存在しないもの）を表しています。BFランクの大学・学部・学科のグラフは表示されません。

●国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合

- ・A～Dの表記はそれぞれの評価の得点帯の下限値を示します。
- ・ボーダーラインはBとCの表示の間になります。
- ・得点帯の幅（例えば10点ごとなど）は1つのグラフの中でも、一律とはならない場合があります。

●私立大・短大・専門学校などの場合

- ・A～Dの表記はそれぞれの評価の偏差値帯の下限値を示します。
- ・ボーダーランクはCの表示の偏差値帯です。

■「教科別成績」

- 各志望校の教科別の「平均偏差値」「本人成績」「大学配点（各志望校の教科別配点）」が表示されます。
- ・出願予定大学以外の国公立大については、あなたの成績は集計対象の母集団に入っていません。
 - ・私立大・共通テスト利用私大の場合は、第2～第9志望の場合でもあなたの成績は母集団に含まれています。
 - ・平均偏差値は、当該大学を志望した受験者【国公立大は出願予定者（前期・中期・後期日程各1校まで）、その他は総志望者（第1～第9志望）】が、受験した科目（理科や地理歴史、公民で複数科目を受験している受験生については、それら全科目）の平均です。入試に課されない教科についても参考として表示しています。
 - ・本人成績は、国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合は共通テスト換算得点（1-（2）合格可能性評価用成績参照）を入試の配点に換算した点数です。私立大・短大・専門学校などの場合は成績概況の欄の科目偏差値を表示しています（母集団はその科目を受験した方です）。理科、地理歴史、公民で2科目以上受験している場合は、入試で課されている科目が1科目であれば偏差値の高い方、2科目であればそれぞれの配点のウェイトをかけて計算した偏差値が表示されます。志望校の入試で教科間選択がある場合や、配点パターンが複数あり一律に決まらない場合、合格可能性評価に使用した教科の成績が表示されています。

・下記の記号は、それぞれ次の意味を表します。

- G：必須教科・科目数の不足
- H：範囲不足
- M：理科における同一名称科目受験（合格可能性は同一名称を含む2科目を採用しています）
- ・大学配点は、入試に課される教科の教科別の配点のうち、あなたの合格可能性評価に採用された教科について表示しています。ただし、あなたが受験していない教科については表示されません。

3. 設問別成績

- 第1志望校の一段階上の判定者との成績比較とは、例えばあなたがC判定であれば、B判定者の平均点との比較になります（A判定の場合はA判定者の平均点との比較になります）。母集団は国公立大は出願予定者、私立大は総志望者です。一段階上の判定者が一人もいない場合は表示されません。

4. 正答・誤答マーク読み取り状況

- 正誤状況の表示については以下の通りです。

- …正答
- ×…誤答
- △…部分点
- S…正解パターンが複数あり正誤が表示できないもの
- N…無回答・マークがうすい等
- W…余分にマークしている

◆ 総合成績表 受験者総数 115,216名

「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」は2つを1科目(100点満点)として扱っています。

- (注) 1. 国理6-8型は、英語+L、数学①、数学②、国語、理科2科目、地理歴史、公民1科目、情報の集計です。
 2. 国文6-8型は、英語+L、数学①、数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民2科目、情報の集計です。
 3. 国公6-6型は、英語+L、数学① or 数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民1科目、情報の集計で、
 国理6-8型、国文6-8型を含んだ母集団によるものです。
 また数学、理科、地理歴史、公民2科目受験の成績については、得点の高い方を使用します。
 4. 私立理系型、私立文系型で、理科および地理歴史、公民2科目受験の成績については、偏差値の高い方を使用します。
 5. 理系は英・数・理(1科目)、文系は英・国・数または地理歴史、公民(1科目)から2~3教科の平均偏差値です。
 6. 英数国総合は、全受験者の中で英数国を受験した全ての受験生を対象とし、英数国3教科の偏差値の平均値により順位付けを行います。

	配点	平均点	標準偏差	平均偏差値	最高点	最低点	人数
国理6-8型	1000	530.1	124.3	50.0	952	69	40716
国文6-8型	1000	494.6	123.3	50.0	919	91	29354
国公6-6型	800	424.7	100.7	50.0	765	60	73675
私立理系型	-----	-----	-----	46.7	-----	-----	9752
私立文系型	-----	-----	-----	46.9	-----	-----	29105
英数国総	-----	-----	-----	50.7	-----	-----	86413
理系	-----	-----	-----	52.1	-----	-----	52484
文系	-----	-----	-----	49.9	-----	-----	61381

全国の受験者の中での位置を教科・科目別/志望別に確認できる「教科科目別成績順位表」「私大評価用順位表」「型別順位表」「コース別順位表」や、選択した志望校以外の大学・学部・学科の大学入学共通テスト・一般私大入試の合格可能性が確認できる「合格可能性評価基準一覧」を、河合塾 Web サイトに掲載しています。

スマートフォンの方は
こちら



www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/

◆科目別成績表

〈全受験者〉

	配点	平均点	標準偏差	平均偏差値	最高点	最低点	人数
英語	100	52.7	21.3	-----	100	0	113851
リスニング	100	52.8	16.7	-----	100	0	112704
英語+L	200	105.7	35.5	-----	200	4	112456
数学I	100	33.8	14.7	-----	86	0	1370
数学I A	100	47.6	15.6	-----	100	0	90752
数学II B C	100	53.6	21.2	-----	100	0	85330
数学①②	200	102.0	34.5	-----	200	0	85122
国語	200	93.2	28.8	-----	196	0	108782
物理基礎	50	20.5	7.4	-----	50	0	4446
物理	100	48.7	19.7	-----	100	0	35350
化学基礎	50	21.5	9.6	-----	50	0	26992
化学	100	43.5	15.7	-----	100	0	45877
生物基礎	50	23.8	9.1	-----	50	0	32388
生物	100	48.1	17.0	-----	100	2	12583
地学基礎	50	26.7	8.5	-----	50	0	9447
地学	100	39.4	19.4	-----	100	3	206
世界史	100	46.0	17.3	-----	100	0	22374
日本史	100	42.1	14.9	-----	100	0	35443
地理	100	40.7	13.0	-----	94	0	29818
倫理	100	48.4	14.9	-----	100	0	8267
政治経済	100	48.9	14.7	-----	100	0	34302
地歴公共	100	35.6	13.4	-----	85	0	6331
情報I	100	57.7	15.4	-----	100	0	78505

〈理系〉

	配点	平均点	標準偏差	平均偏差値	最高点	最低点	人数
英語	100	55.4	-----	51.3	100	0	52579
リスニング	100	54.3	-----	50.9	100	0	51891
英語+L	200	109.8	-----	51.2	200	6	51778
数学I	100	37.1	-----	52.3	83	4	571
数学I A	100	51.6	-----	52.6	100	0	51682
数学II B C	100	59.4	-----	52.7	100	0	50793
数学①②	200	111.3	-----	52.7	200	1	50680
国語	200	95.6	-----	50.8	196	0	47544
物理基礎	50	19.0	-----	47.9	44	2	1659
物理	100	48.7	-----	50.0	100	0	35166
化学基礎	50	20.7	-----	49.1	50	0	2618
化学	100	43.6	-----	50.0	100	0	45552
生物基礎	50	21.7	-----	47.6	47	0	1904
生物	100	48.8	-----	50.4	100	3	12036
地学基礎	50	21.6	-----	44.1	43	6	249
地学	100	45.6	-----	53.2	100	6	120
世界史	100	51.4	-----	53.1	100	2	1073
日本史	100	47.1	-----	53.4	97	3	2103
地理	100	40.8	-----	50.1	94	0	24566
倫理	100	48.5	-----	50.1	100	0	2561
政治経済	100	50.5	-----	51.1	100	0	10942
地歴公共	100	36.6	-----	50.8	85	3	2997
情報I	100	61.2	-----	52.2	100	0	43327

〈文 系〉

	配 点	平 均 点	標 準 差	平 均 偏差値	最高点	最低点	人 数
英 語	100	50.4	-----	48.9	100	0	61272
リスニング	100	51.6	-----	49.2	100	0	60813
英語＋L	200	102.1	-----	49.0	200	4	60678
数学 I	100	31.5	-----	48.4	86	0	799
数学 I A	100	42.3	-----	46.6	98	0	39070
数学 II B C	100	45.0	-----	45.9	100	0	34537
数学①②	200	88.4	-----	46.1	198	0	34442
国 語	200	91.2	-----	49.3	196	0	61238
物理基礎	50	21.4	-----	51.1	50	0	2787
物理	100	34.6	-----	42.8	81	0	184
化学基礎	50	21.6	-----	50.1	50	0	24374
化学	100	31.1	-----	42.1	81	2	325
生物基礎	50	23.9	-----	50.1	50	0	30484
生物	100	34.3	-----	41.9	87	2	547
地学基礎	50	26.9	-----	50.2	50	0	9198
地学	100	30.6	-----	45.5	73	3	86
世界史	100	45.7	-----	49.8	100	0	21301
日本史	100	41.8	-----	49.8	100	0	33340
地 理	100	40.3	-----	49.7	90	0	5252
倫 理	100	48.3	-----	49.9	96	6	5706
政治経済	100	48.2	-----	49.5	96	0	23360
地歴公共	100	34.7	-----	49.4	85	0	3334
情報 I	100	53.4	-----	47.2	100	0	35178

◆教科科目別設問別成績表

〈英語（リーディング）〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	52.7	21.3	100	0	113851
1	読解問題－案内	6	3.6	1.9	6	0	113851
2	読解問題－レビュー	10	5.9	2.9	10	0	113851
3	読解問題－レポート	9	6.9	2.9	9	0	113851
4	読解表現融合問題－レポート推敲	12	6.3	3.3	12	0	113851
5	読解問題－記事	16	9.7	4.9	16	0	113851
6	読解表現融合問題－レポート作成	18	9.0	5.1	18	0	113851
7	読解問題－雑誌記事	15	6.6	4.7	15	0	113851
8	読解問題－論説文	14	4.6	4.2	14	0	113851

〈英語（リスニング）〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	52.8	16.7	100	0	112704
1	短文発話内容一致問題	25	16.8	5.8	25	0	112704
2	対話文イラスト選択問題	16	10.8	3.3	16	0	112704
3	対話文質問選択問題	18	8.3	4.3	18	0	112704
4	モノローグ型中文内容把握問題	12	5.4	3.3	12	0	112704
5	モノローグ型長文内容把握問題	15	5.1	3.6	15	0	112704
6	会話長文質問選択問題	14	6.4	4.1	14	0	112704

〈数学 I〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	33.8	14.7	86	0	1370
①①	無理数の計算と値の評価	10	4.5	2.4	10	0	1370
②	集合の要素の個数、命題の真偽	10	4.5	2.8	10	0	1370
全体		20	9.0		20	0	1370
②	正弦定理とその応用	30	10.3	5.6	30	0	1370
③①	区間における最大値・最小値	15	5.1	4.1	15	0	1370
②	BMI を用いた身長と体重の計算	15	3.6	2.8	15	0	1370
全体		30	8.7		30	0	1370
④	箱ひげ図、散布図、仮説検定	20	5.7	4.4	20	0	1370

〈数学 I A〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	47.6	15.6	100	0	90752
①①	無理数の計算と値の評価	10	5.6	2.5	10	0	90752
②	正弦定理とその応用	20	11.0	4.6	20	0	90752
全体		30	16.5		30	0	90752
②①	BMI を用いた身長と体重の計算	15	6.1	3.5	15	0	90752
②	箱ひげ図、散布図、仮説検定	15	7.1	3.7	15	0	90752
全体		30	13.2		30	0	90752
③	方べきの定理、メネラウスの定理	20	10.3	4.0	20	0	90752
④	確率と期待値の計算	20	7.6	5.6	20	0	90752

〈数学 II B C〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	53.6	21.2	100	0	85330
1	加法定理、2倍角の公式、方程式	15	9.1	3.6	15	0	85330
2	不等式、水温の変化	15	10.2	4.3	15	0	85330
3	面積、極値、接線、最大値	22	12.0	6.4	22	0	85330
4	等比数列、格子点の個数	16	8.4	4.5	16	0	71394
5	二項分布、正規分布、信頼区間	16	7.8	3.6	16	0	51185
6	交点の位置ベクトル、内積	16	6.9	3.9	16	0	64578
7	直線、円、面積	16	7.9	4.0	16	0	56491

〈国語〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		200	93.2	28.8	196	0	108782
1	現代文「論理的文章」の読解	45	21.9	9.8	45	0	108782
2	現代文「文学的文章」の読解	45	21.7	9.3	45	0	108782
3	現代文「資料とメモ」の読解	20	10.3	5.8	20	0	108782
4	古文「擬古物語」の読解	45	20.1	9.5	45	0	108782
5	漢文「史伝」の読解	45	19.2	10.2	45	0	108782

〈物理基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		50	20.5	7.4	50	0	4446
1	各分野の基本事項	16	4.9	3.3	16	0	4446
2	弦の振動・仕事と熱量	16	7.7	3.4	16	0	4446
3	糸でつながれた2物体の運動	18	7.8	3.7	18	0	4446

〈物理〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	48.7	19.7	100	0	35350
1	各分野の基本問題	27	12.4	6.2	27	0	35350
2	力のつり合い・運動方程式	23	13.4	5.3	23	0	35350
3	仕事とエネルギー・熱と温度	25	10.1	7.0	25	0	35350
4	気柱の共鳴	25	12.9	7.3	25	0	35350

〈化学基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		50	21.5	9.6	50	0	26992
1	物質の構成, 物質の変化	30	13.6	6.3	30	0	26992
2	水の状態変化, 電池	20	7.9	5.0	20	0	26992

〈化学〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	43.5	15.7	100	0	45877
1	物質の構成, 化学量, 結晶	20	9.0	4.3	20	0	45877
2	溶液, 酸と塩基	20	7.1	4.7	20	0	45877
3	酸化還元反応	20	9.7	4.8	20	0	45877
4	気体, 蒸気圧	20	8.7	4.8	20	0	45877
5	雨水に関する総合問題	20	8.9	4.9	20	0	45877

〈生物基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		50	23.8	9.1	50	0	32388
1	細胞・DNAの構造と抽出	17	8.0	3.9	17	0	32388
2	免疫・血糖濃度の調節	18	9.1	4.8	18	0	32388
3	バイオーム・生態系の保全	15	6.8	3.8	15	0	32388

〈生物〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	48.1	17.0	100	2	12583
1	細胞・DNAの構造と抽出	17	9.8	4.0	17	0	12583
2	免疫・血糖濃度の調節	18	10.8	4.9	18	0	12583
3	バイオーム・生態系の保全	15	7.7	3.8	15	0	12583
4	化学進化・縞状鉄鉱層の形成	11	5.4	3.5	11	0	12583
5	植物の呼吸と嫌気呼吸	23	8.4	5.2	23	0	12583
6	分子系統樹	16	6.0	4.0	16	0	12583

〈地学基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		50	26.7	8.5	50	0	9447
1	地球の表層・地震	17	9.1	4.3	17	0	9447
2	断層・不整合・形成順序	10	4.6	3.1	10	0	9447
3	温室効果ガス・天気図・水の循環	13	6.7	3.3	13	0	9447
4	惑星・小天体	10	6.4	2.4	10	0	9447

〈地学〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	39.4	19.4	100	3	206
1	地球の内部構造・地磁気	18	7.5	4.4	18	0	206
2	火成岩・流水の作用・堆積岩	22	6.9	5.4	22	0	206
3	地質断面図・地史	17	7.1	4.8	17	0	206
4	大気・海洋・日本の気候	22	8.1	5.9	22	0	206
5	太陽系・太陽	21	9.7	5.5	21	0	206

〈世界史〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	46.0	17.3	100	0	22374
1	国際政治や世界経済と日本の関わり	25	11.6	5.3	25	0	22374
2	世界各地の叙事詩	19	8.1	4.5	19	0	22374
3	古代における「帝国」の形成	18	7.2	4.5	18	0	22374
4	世界各地の文化遺産	19	9.2	4.8	19	0	22374
5	特定の主題に対する考察	19	9.9	4.8	19	0	22374

〈日本史〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	42.1	14.9	100	0	35443
1	世界の都市をめぐる諸相	25	11.0	5.1	25	0	35443
2	古代・中世の土地制度・民衆支配	19	7.7	4.3	19	0	35443
3	弥生～古墳時代の地域社会	19	8.9	4.4	19	0	35443
4	遣隋使・遣唐使と古代の外交	18	7.4	4.2	18	0	35443
5	院政期～鎌倉時代の政争・争乱	19	7.1	4.3	19	0	35443

〈地理〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	40.7	13.0	94	0	29818
1	国家と国家群	12	4.1	2.8	12	0	29818
2	気候と気象災害	13	4.2	3.3	13	0	29818
3	自然環境と災害	17	6.3	3.3	17	0	29818
4	国家間の結びつき	17	7.4	3.8	17	0	29818
5	ヨーロッパ地誌	17	7.5	4.1	17	0	29818
6	北海道二セコ町周辺の地域調査	24	11.3	5.3	24	0	29818

〈倫理〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	48.4	14.9	100	0	8267
1	公共の扉	13	7.1	3.0	13	0	8267
2	民主政治と政治参加	12	4.8	2.8	12	0	8267
3	国際社会の中で生きる私たち	13	6.2	3.6	13	0	8267
4	課題探究学習	12	8.9	3.2	12	0	8267
5	東西の源流思想	25	11.1	5.5	25	0	8267
6	西洋近現代思想と心理学説	25	10.2	4.7	25	0	8267

〈政治・経済〉

設問	設問内容	配点	平均点	標準偏差	最高点	最低点	人数
トータル		100	48.9	14.7	100	0	34302
1	公共の扉	13	6.9	2.9	13	0	34302
2	民主政治と政治参加	12	4.9	3.0	12	0	34302
3	国際社会の中で生きる私たち	13	6.3	3.6	13	0	34302
4	課題探究学習	12	8.9	3.1	12	0	34302
5	人権思想の発達と日本国憲法	25	11.3	5.3	25	0	34302
6	現代経済の仕組み	25	10.5	4.9	25	0	34302

〈地理総合／歴史総合／公共〉

設問	設 問 内 容	配 点	平均点	標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数
トータル		100	35.6	13.4	85	0	6331
1	地－国家と国家群	12	3.4	2.7	12	0	5123
2	地－気候と気象災害	13	3.2	2.8	13	0	5123
3	地－生活文化の多様性	13	3.6	2.6	13	0	5123
4	地－北海道ニセコ町周辺の地域調査	12	5.0	3.2	12	0	5123
全体		50	15.2		41	0	5123
1	歴－世界の都市をめぐる諸相	25	10.1	5.0	25	0	2210
2	歴－国際政治・経済と日本の関わり	25	9.4	5.3	25	0	2210
全体		50	19.6		47	0	2210
1	公－公共の扉	13	6.4	3.0	13	0	4853
2	公－民主政治と政治参加	12	3.9	2.8	12	0	4853
3	公－国際社会の中で生きる私たち	13	4.6	3.5	13	0	4853
4	公－課題探究学習	12	6.7	3.7	12	0	4853
全体		50	21.5		47	0	4853

〈情報 I〉

設問	設 問 内 容	配 点	平均点	標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数
トータル		100	57.7	15.4	100	0	78505
1	情報社会の問題解決，基数変換	20	15.0	4.2	20	0	78505
2	データの圧縮，ポスターのデザイン	30	19.1	5.3	30	0	78505
3	アルゴリズムとプログラミング	25	12.2	6.1	25	0	78505
4	コンピュータの構成，ネットワーク	25	11.4	4.9	25	0	78505

◆設問別正答率表

〈英語(リーディング)〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	60.1
	2	76.9
	3	44.4
	トータル	60.5
2	4	54.5
	5	70.6
	6	44.1
	7	58.6
	トータル	65.9
3	9-12	70.4
	13	71.5
	14	87.0
	トータル	76.3
4	15	51.4
	16	76.5
	17	39.9
	18	43.8
	トータル	52.9
5	19	66.2
	20	72.0
	21	47.9
	22	55.3
	23	63.1
	トータル	60.7
6	25	60.6
	26	46.6
	27-28	48.9
	29	49.8
	30	49.8
	31	45.5
	トータル	50.2
7	32-35	27.5
	36	70.7
	37-38	36.1
	39	39.9
	40	45.2
	トータル	43.9
8	41	51.7
	42	33.3
	43-44	25.1
	45	25.4
	46	36.8
	トータル	34.4

〈英語(リスニング)〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	46.6
	2	56.1
	3	58.4
	4	56.2
	5	90.8
	6	93.9
	7	84.4
	トータル	69.5
2	8	80.1
	9	95.0
	10	75.7
	11	18.5
	トータル	67.4
3	12	30.3
	13	40.2
	14	77.3
	15	35.6
	16	35.2
	17	58.0
		トータル
4	18-21	31.6
	22	94.0
	23	52.8
	24	75.3
	25	48.8
	26	36.3
	トータル	56.5
5	27	41.2
	28-29	27.5
	30-31	42.0
	32	43.3
	33	18.8
		トータル
6	34	38.6
	35	39.2
	36	50.1
	37	52.0
	トータル	45.0

〈数学 I〉

問題番号	解答番号	正答率	
①	ア	80.2	
	カ	46.2	
	キ	26.4	
	ク	55.8	
	ケ	17.3	
		トータル	45.2
②	コ	80.7	
	サ	52.2	
	シ	40.5	
	ス	45.3	
	セ	6.2	
		トータル	45.0
	総トータル	45.1	
②	ア	62.7	
	イ	51.8	
	ウ	68.5	
	エ	55.3	
	オ	42.1	
	カ	25.1	
	キ	9.2	
	ク	16.4	
	ケ	24.4	
		トータル	39.5
③	ア	70.6	
	イ	43.2	
	オ	34.5	
	カ	38.8	
	ク	47.3	
	コ	13.6	
	シ	4.5	
		トータル	36.1
	③	ソ	36.1
		ツ	74.8
テ		43.8	
ト		9.6	
ヌ		5.6	
ハ		2.6	
	トータル	28.8	
	総トータル	35.5	
④	ア	44.4	
	イ	37.1	
	ウ	20.7	
	エ	42.0	
	オ	43.2	
	カ	19.0	
	キ	25.8	
	ク	14.7	
		トータル	30.9

〈数学 I A〉

問題番号	解答番号	正答率	
①	ア	90.6	
	カ	54.6	
	キ	40.6	
	ク	63.2	
	ケ	28.7	
		トータル	55.6
①	コ	81.6	
	サ	68.5	
	シ	85.3	
	ス	70.3	
	セ	58.1	
	ソ	22.2	
	タ	27.1	
		トータル	59.0
		総トータル	57.6
	①	ア	59.4
ウ		91.9	
エ		62.3	
オ		26.3	
カ		23.8	
ク		10.8	
	トータル	45.7	
②	セ	65.2	
	ソ	40.0	
	タ	69.3	
	チ	52.3	
	ツ	29.4	
	テ	53.8	
	トータル	47.9	
	総トータル	46.9	
③	ア	86.8	
	イ	82.8	
	ウ	46.4	
	エ	71.5	
	オ	76.8	
	カ	79.5	
	キ	57.3	
	ク	52.5	
	ケ	14.1	
	コ	22.8	
	トータル	53.8	
④	ア	83.9	
	イ	67.7	
	ウ	60.2	
	エ	42.2	
	オ	22.5	
	カ	35.7	
	トータル	45.0	

〈数学 II BC〉

問題番号	解答番号	正答率
①	ア	89.3
	イ	84.2
	ウ	69.9
	エ	87.3
	オ	94.4
	カ	84.6
	ク	50.1
	コ	42.4
	ソ	37.3
	タ	12.0
	トータル	65.1
②	ア	96.1
	イ	79.8
	エ	80.2
	オ	79.5
	カ	35.5
	ク	86.3
	コ	69.1
	シ	68.1
	セ	45.6
		トータル
③	ア	88.5
	イ	49.6
	エ	85.5
	ク	74.3
	ケ	67.5
	シ	73.1
	ス	74.5
	セ	40.9
	タ	50.1
	チ	39.8
	トータル	52.8
④	ア	92.2
	イ	90.4
	ウ	85.9
	オ	47.6
	ク	68.4
	コ	65.2
	サ	37.1
	ソ	25.3
	チ	10.9
		トータル
⑤	ア	90.8
	イ	94.3
	エ	77.0
	カ	32.5
	ケ	77.1
	シ	49.2
	セ	26.4
	ソ	50.6
	タ	20.3

問題番号	解答番号	正答率
⑤	チ	27.1
	ツ	28.4
	テ	25.1
	トータル	32.6
⑥	ア	96.8
	イ	89.5
	エ	66.1
	キ	77.1
	ク	36.8
	シ	29.2
	タ	74.7
	ツ	55.1
	テ	26.0
	ト	20.3
	トータル	52.3
⑦	ア	87.2
	イ	85.8
	オ	71.7
	カ	75.4
	ク	72.5
	シ	54.1
	トータル	20.3
	トータル	5.1
	トータル	59.0

〈国 語〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	40.7
	2	66.4
	3	73.0
	4	72.8
	5	40.2
	6	42.6
	7	57.3
	8	40.4
	9	46.2
トータル		53.3
2	10	20.4
	11	74.6
	12	59.0
	13	44.1
	14	35.4
	15	57.1
	16	53.0
	17	42.3
トータル		48.2
3	18	62.8
	19	43.6
	20	46.9
	21	52.5
トータル		51.4
4	22	34.6
	23	49.1
	24	46.4
	25	53.1
	26	38.5
	27	28.9
	28	51.3
	29	55.5
トータル		44.7
5	30	34.1
	31	54.1
	32	21.7
	33	48.9
	34	57.5
	35	47.2
	36	47.7
	37	39.1
38	36.2	
トータル		42.9

〈物理基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	18.2
	2	11.9
	3	26.8
	4	26.5
トータル		20.8
2	5	40.2
	6	60.0
	7	56.6
	8	39.4
	9	80.5
10-12		13.3
トータル		48.3
3	13	65.2
	14	56.1
	15	37.0
	16	51.5
	17	15.8
	18	56.6
	19	34.3
	20	26.4
トータル		42.9

〈物 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	30.0
	2	24.3
	3	67.9
	4	53.2
	5	32.9
	6	48.9
	7	46.3
トータル		43.4
2	8	86.0
	9	77.0
	10	64.3
	11	71.3
	12	16.3
トータル		63.0
3	13	59.3
	14	12.9
	15	41.4
	16	47.8
	17	39.7
トータル		40.2
4	18	79.4
	19	51.5
	20	57.2
	21	42.8
	22-25	34.1
26	52.1	
トータル		52.9

〈化学基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	59.8
	2	53.0
	3	19.7
	4	45.2
	5	57.1
	6	63.6
	7	57.3
	8	29.3
	9	39.4
	10	29.7
トータル		45.4
2	11	49.4
	12	47.6
	13	30.9
	14	44.8
	15	24.3
トータル		39.4

〈化 学〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	69.3
	2	58.3
	3	39.9
	4	53.7
	5	15.0
	6	62.3
	7	27.7
トータル		46.6
2	8	34.8
	9	46.8
	10	34.5
	11	30.6
	12	45.4
	13	17.1
トータル		34.9
3	14	48.4
	15	59.0
	16	28.1
	17	64.4
	18	57.6
	19	39.9
	トータル	
4	20	45.2
	21	28.4
	22	46.2
	23	67.8
	24	43.8
	25	16.3
トータル		41.3
5	26	42.2
	27-29	69.0
	30	38.1
	31	34.2
32	39.5	
トータル		44.6

〈生物基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	56.5
	2	51.5
	3	53.1
	4	27.6
	5	32.1
	6	55.4
トータル		46.0
2	7	56.6
	8	42.4
	9	53.3
	10	47.9
	11	52.7
12	50.2	
トータル		50.5
3	13	36.1
	14	42.1
	15	56.6
	16	59.4
	17	30.9
トータル		45.0

〈生 物〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	69.2
	2	68.2
	3	61.7
	4	43.9
	5	33.8
	6	59.7
	トータル	56.1
2	7	64.8
	8	54.2
	9	63.8
	10	52.0
	11	63.1
	12	61.6
	トータル	59.9
3	13	43.6
	14	50.2
	15	59.3
	16	65.6
	17	38.9
	トータル	51.5
4	18	56.8
	19	44.9
	20	47.6
		トータル
5	21	43.9
	22	24.2
	23	24.9
	24	63.6
	25	30.4
	26	29.9
	トータル	36.2
6	27	71.2
	28	28.0
	29	25.4
	30	26.5
	トータル	37.8

〈地学基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	54.6
	2	46.8
	3	38.9
	4	55.6
	5	77.8
	トータル	54.7
2	6	22.6
	7	43.3
	8	64.9
		トータル
3	9	57.3
	10	38.1
	11	44.6
	12	70.8
	トータル	52.7
4	13	69.9
	14	88.7
	15	24.3
	トータル	61.0

〈地 学〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	56.8
	2	32.5
	3	38.3
	4	52.4
	5	30.1
	トータル	42.0
2	6	18.9
	7	28.2
	8	25.2
	9	52.4
	10	37.9
	11	26.2
	トータル	31.5
3	12	29.6
	13	36.4
	14	57.8
	15	28.2
	16	50.0
		トータル
4	17	47.6
	18	35.0
	19	32.0
	20	41.3
	21	38.8
	22	29.6
		トータル
5	23	57.8
	24	76.2
	25	25.2
	26	24.8
	27	55.3
	28	37.4
		トータル

〈世界史〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	52.1
	2	48.2
	3	19.8
	4	38.0
	5	75.5
	6	44.3
	7	42.0
	8	52.2
	トータル	46.5
2	9	68.6
	10	40.6
	11	55.1
	12	22.7
	13	53.9
	14	24.7
	15	45.3
	トータル	44.4
3	16	23.0
	17	34.7
	18	60.8
	19	57.1
	20	33.9
	21	29.7
	トータル	39.8
4	22	49.1
	23-24	37.3
	25	42.9
	26	45.5
	27	54.5
	28	33.9
		トータル
5	29	65.6
	30	34.7
	31	43.6
	32	57.8
	33	33.9
	34	71.7
	トータル	51.2

〈日本史〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	57.7
	2	49.8
	3	33.2
	4	50.8
	5	49.7
	6	39.7
	7	47.3
	8	24.0
	トータル	44.0
2	9	37.0
	10	17.6
	11	16.7
	12	40.8
	13	56.5
	14	65.5
		トータル
3	15	45.7
	16	23.7
	17	64.7
	18	43.3
	19	49.8
	20	48.5
	トータル	45.9
4	21	34.2
	22	56.9
	23	53.8
	24	32.7
	25	27.5
	26	40.8
	トータル	41.0
5	27	29.5
	28	25.7
	29	23.6
	30	34.9
	31	67.1
	32	43.8
	トータル	37.4

〈地 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	58.3
	2	38.4
	3	20.7
	4	17.9
		トータル
2	5	39.0
	6	32.6
	7	33.9
	8	26.5
	トータル	33.0
3	9	34.3
	10	24.4
	11	17.6
	12	90.6
	13	25.1
	トータル	38.4
4	14	20.7
	15	50.1
	16	27.1
	17	77.2
	18	37.7
	トータル	42.6
5	19	36.9
	20	57.8
	21	42.6
	22	24.1
	トータル	44.9
6	24	44.4
	25	31.0
	26	53.5
	27	27.7
	28	52.7
	29	58.2
30	66.2	
	トータル	47.7

〈倫 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	27.1
	2	53.1
	3	49.6
	4	97.7
トータル		56.9
2	5	48.6
	6	73.2
	7	19.5
	8	18.4
トータル		39.9
3	9	80.2
	10	45.6
	11	34.9
	12	32.4
トータル		48.3
4	13	73.4
	14	72.5
	15	81.2
	16	69.9
トータル		74.3
5	17	53.9
	18	19.4
	19	71.5
	20	26.0
	21	59.0
	22	43.1
	23	41.5
	24	42.0
トータル		44.6
6	25	72.1
	26	24.9
	27	29.3
	28	23.7
	29	24.1
	30	35.1
	31	34.7
	32-33	84.3
トータル		41.0

〈政治・経済〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	24.7
	2	50.6
	3	49.1
	4	98.2
トータル		55.7
2	5	47.7
	6	73.3
	7	22.1
	8	21.6
トータル		41.2
3	9	79.6
	10	45.2
	11	36.2
	12	33.5
トータル		48.6
4	13	75.5
	14	70.9
	15	81.2
	16	69.8
トータル		74.4
5	17	64.0
	18	27.9
	19	33.4
	20	27.2
	21	41.2
	22	52.0
	23	50.2
	24	62.8
トータル		44.8
6	25	68.2
	26	36.1
	27	21.2
	28	33.5
	29	36.7
	30	50.7
	31	22.6
	32	70.4
トータル		42.4

〈地理総合／歴史総合／公共〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	46.7
	2	33.6
	3	17.7
	4	15.1
トータル		28.3
2	5	31.8
	6	25.9
	7	25.1
	8	16.8
トータル		24.9
3	9	62.0
	10	21.0
	11	9.7
	12	25.5
トータル		29.5
4	13	24.2
	14	42.0
	15	42.5
	16	57.2
トータル		41.5
総トータル		31.1
1	1	53.1
	2	49.8
	3	32.1
	4	48.7
	5	48.0
	6	32.6
	7	38.9
	8	21.5
トータル		40.6
2	9	45.7
	10	42.8
	11	19.4
	12	30.0
	13	61.0
	14	31.9
	15	32.7
	16	40.0
トータル		37.9
総トータル		39.3
1	1	23.5
	2	44.2
	3	41.9
	4	95.2
トータル		51.2
2	5	36.4
	6	58.6
	7	17.8
	8	15.6
トータル		32.1
3	9	62.0
	10	28.3
	11	28.3
	12	27.0
トータル		36.4

問題番号	解答番号	正答率
4	13	50.4
	14	60.2
	15	60.8
	16	51.0
	トータル	
総トータル		43.8

〈情報 I〉

問題番号	解答番号	正答率	
1	ア-イ	96.5	
	ウ-エ	65.5	
	オ-カ	64.6	
	キ	84.8	
	ク	58.4	
	ケ-シ	61.9	
	ス	86.8	
	セ	77.5	
	トータル		74.5
	2	ア	19.3
イ		37.1	
ウ		48.3	
エ		63.6	
オ		45.0	
カ		60.4	
キ		74.6	
ク		87.0	
ケ		72.2	
コ		71.0	
サ	94.2		
シ	93.4		
トータル		63.8	
3	ア	87.0	
	イ	81.0	
	ウ	42.9	
	エ	51.9	
	オ-キ	23.6	
	ク-コ	23.5	
	サ-ス	20.4	
	セ	37.4	
	ソ	51.4	
	タ	41.1	
トータル		46.0	
4	ア	38.9	
	イ	72.5	
	ウ	38.4	
	エ	20.9	
	オ	68.5	
	カ	51.8	
	キ	23.4	
	ク	29.8	
	ケ	70.5	
	コ	62.8	
サ	30.7		
トータル		46.2	

学習対策

ここでは、教科・科目ごとにポイントとなる問題を取り上げ、その問題の概要と正解を導くために必要な力についてコメントをしています。今後の学習のアドバイス等も記してありますので、自分が受験した教科・科目を確認して復習に役立てましょう。

なお、大問ごとの講評、学習のアドバイスは  **模試ナビ** 河合塾 全統模試 学習ナビゲーター に掲載していますので、確認をしてください。

英語

【リーディング】

意見やグラフを含む資料を照らし合わせながら読む

第6問 読解表現融合問題(レポート作成)

様々な人のコメント及び資料を読み、その両方から情報を読み取ることが必要な問題

これは共通テストの「文章・図・資料などの複数の情報を提示し、必要な情報を読み取る力や、読み取った情報を比較したり組み合わせたりして、課題を解決する力を問うことを意識した問題」という方向性に沿うものである。

今回の問題は、「会社は週4日勤務を導入するのを検討すべきか」に関するもので、ステップ1では様々な立場の人の意見を読み、ステップ3では文書とグラフを参照して解答するものである。ステップ1の問1は筆者AとEの意見の共通点、問2は筆者Dが示唆している内容に関する問題で、各々の人の意見を比較・対照しながら丁寧に読む必要がある。ステップ2は「会社は週4日勤務を導入すべきではない」という立場に立って、各問いに答えるもので、問3は、この立場に沿った意見を述べている筆者を2人選ぶ問題で、自分の立場と合っているかどうかを吟味しながら、それぞれの意見を読む必要がある。ステップ3の問4は、「週4日勤務」について書かれた資料(文章)を読んで答えるもの、問5は、グラフを含む資料を読んで答えるものだが、特に問5は数値・割合を表す表現などに注意しながら、それぞれの選択肢を正確に読み取る必要がある。全体としては、単に本

文と一致する選択肢を選ぶのではなく、1つのテーマに関する様々な意見や資料を参照しながら答えるというもので、正確で深い読解力を問われる問題であった。

このように、第6問では様々な情報を総合的に読み取り、色々な方面から総合的に見てどれが正しいかを判断する力が求められる。

問題を解くにあたっては、本文を読む前に図表や問いにざっと目を通しておくことによって、文章の内容をある程度予想することができる。さらに、どの問題で何が問われているのかをあらかじめ確認した上で必要な情報を探して読むことで、より効率的に正解を得られるはずである。また、全体として解答時間が足りなかった人は、第6問に限らず、本文を読み始める前に問題に目を通してから、解答に必要な情報を探して読むという方法を身につけるとよい。

【リスニング】

聴き取った情報を図表の情報と組み合わせて判断しよう

第5問【モノログ型長文ワークシート完成・選択問題】

社会的な話題に関する講義とそれについてのディスカッションから聴き取った情報を図表から読み取った情報と組み合わせて判断する力を測定する問題

本問は、「自己修復コンクリート(self-healing concrete)」に関する講義から聴き取った情報を統合し、比較・判断しながらワークシートを完成したり、図表を見ながら行っているディスカッションから聴き取った情報を講義内容および図表と組み合わせて判断したりする問題である。「聴く力」に加え「読む力」が要求されており、音声が入りしか流れないため、ポーズ時間を利用して問題冊子に印刷されている情報をいかに素早く理解するか、また講義の概要をいかに的確に記憶するかがカギとなる。さて、「ポイントとなった設問」は次の2点である。

1点目は、問28～31である。まず、Today's self-healing concrete について、Capsule concrete「カプセルコンクリート」に関しては、英文中程の情報を聴き取り、「コンクリートが壊れると、泡も壊れ、すると、中の接着剤が出てきて亀裂の中に広がること」を理解し、続けて聞こえてくる情報を聴き取り、「カプセルコンクリートは1回しか自己修復できないこと」を理解することが求められた。さらにVascular concrete「導管コンクリート」は、カプセルコンクリートに続く情報を聴き取り、「接着剤が血液のように管の中を動くこと」を理解し、続けて聞こえてくる情報を聴き取り、「接着剤を管の中に何度も押し込むことができること」を理解することが求められた設問である。

2点目は、問33である。グラフから自己修復コンクリートの生産量が年々増加しつつあることを読み取り、講義後のディスカッションで、ベスが「自己修復コンクリートは自らを直すから、普通のコンクリートよりはるかに長持ちする」と言っていることを聴き取り、それに対するピートが「それによって将来、全体的なコンクリート生産量が減る」と言っていることを理解することが求められた設問である。
【アドバイス】 音声を聴く前に、状況およびワークシート・選択肢・図表を素早く読み、講義とディスカッションの展開を予測しよう。

数 学

【数学Ⅰ，数学A】【数学Ⅰ】

日常の事象と絡めた測量の問題に慣れよう

【数学Ⅰ，数学A】 第1問〔2〕 図形と計量

【数学Ⅰ】 第2問 図形と計量

三角比を利用して塔や丘の高さを測量する問題

「図形と計量」の単元について、2024年度の本試験では、太陽光によってできる電柱の影と電柱の高さの関係を考察する問題が出題された。また、2022年度には、地図アプリに表示される地形の断面図を利用してキャンプ場の地点から山頂を見上げる角度を求める問題が出題されている。このような「日常の事象と絡めた測量」に関する出題は今後も続くと考えられ、十分な対策が必要である。

本問の(1)は正弦定理とその使い方を習得できているかを確認する問題であり、(2)は(1)の結果を利用して「丘の頂上から測った塔の高さ」と「水平面から測った丘の高さ」を計算する問題である。(1)(i)では、空所に当てはまる正しい数式を解答群の中から選択してマークすればよいが、線分の長さや角度を表すために設定されている文字の種類が多いので、正解によく似た形の誤った数式を選んでしまわないように、問題文をよく読んで、慎重に計算しよう。正しい数式を選ぶためには、正弦定理を用いて立式した等式を変形する必要がある。その式変形を頭の中だけで処理しようとする、分数式の分母・分子の取り違えなどのミスが誘発されやすい。式変形は(問題冊子の余白などを利用して)紙に書いて行ったほうがよい。(i)で誤った数式を選んでしまった場合、次の(ii)において x と y の比が求められなくなる。何かおかしいと思ったら、手前の設問に戻って考え直してみることも大事である。(2)では、図中の角度 θ_1 、 θ_2 、 θ_3 が、(1)の参考図における角度 α 、 β 、 γ にそれぞれ対応していることを素早く見抜きたい。そうすれば、(1)の結果を利用して、塔や丘の高さの計算をスムーズに行うことができる。また、三角比の表の利用のしかたについても確認しておこう。

長い問題文や複数の図表から求値のために必要な情報だけを素早くすくい上げるには訓練を要する。模試や普段の演習においてそういうタイプの問題に出会った際には好機と捉え、すべての疑問点が解消されるまで丁寧に復習しよう。

【数学Ⅱ，数学B，数学C】

問題文から数学的な意味を正確に読み取ろう

第2問〔2〕 指数関数・対数関数

熱湯が冷めていくときの温度の変化を指数関数・対数関数を用いて分析する問題

大学入学共通テストでは、日常現象を数学的なモデルに置き換えることによって分析する問題や、会話文を読み取る問題が出題されている。こういった問題では日常用語を用いて書かれた問題文から数学的意味を持っている部分を的確に読み取り、問題文の指示に従って日常現象の数学的なモデルを把握できるかどうかで半分以上の勝負が決まる。本番は時間との戦いになる可能性が高いので、問題文の読み取りに手間取ると致命傷になるかもしれないため、こういった問題文の読み取りの訓練をしっかりと行っておこう。

この問題では熱湯が冷めていくときの温度変化を指数関数を用いて表すことにより、指数関数や対数関数の計算に持ち込めるようにした。熱湯が冷めていくときの温度変化をどのような指数関数の式で表すのかは問題文に与えられているので、自分で考える必要はない。あとは、問題文に与えられている値を代入して指数関数の知識を用いるといった作業をするだけで、前半の点数はとれる。前半の結果により、熱湯が冷めていくときの温度変化をどのような指数関数の式で表すのかが確定するので、この結果を用いて、後半では指数関数で表された方程式を対数関数を利用して解くことになる。その際に、常用対数の値が必要となる。今回は問題を解くのに必要な常用対数の値は問題文に与えられていたが、実際の共通テストでは常用対数表からそういった値を読み取り、場合によっては対数関数の公式を用いて必要な常用対数の値を割り出すことになる可能性もある。この機会にそういった練習もしておこう。また、指数関数や対数関数の公式などもこの機会に教科書等でしっかり確認し、計算練習も行っておこう。間違ったところは学習の手引きを見てしっかり復習しておこう。

国 語

【現代文】

多様な資料を的確に読解して、構想メモの内容を考えよう

第3問 問2(i)

文章およびグラフや図表の内容を踏まえ構想メモの内容を考える問題

令和7年度の大学入学共通テストには新しく第3問が加わり、外来語の使用について複数の資料(生徒が書いたという体裁の文章や、グラフなど)をもとに考察させる問題が出題された。大学入試センターが事前に公表していた、「より多様な文章を扱うこと」で「目的や場面に応じて必要な情報と情報の関係を的確に理解する力や、様々な文章の内容を把握したり、適切に解釈したりする力」を評価するという問題作成の方針に沿ったものであった。今回の共通テスト高2模試では、第3問の間2(i)を、そうした共通テストの作成方針に準ずる問題として出題した。この種の問題を解く際には、複数の文章やグラフ・図表などの内容を的確に読み取り、それらの関連性を把握することがポイントとなる。共通テスト高2模試の第3問の間2(i)について言えば、【資料Ⅰ】～【資料Ⅳ】の文章およびグラフや図表の内容を踏まえ、生徒がレポートを書くにあたって作成した【構想メモ】の空欄に入れるのに不適当な選択肢を選ぶことが求められている。大学入学共通テストの現代文では、今後も受験生の思考力・判断力を問うべく、グラフや図表などを含むさまざまな資料を組み合わせた形式の設問が出題されると予想されるが、文章の内容を正しく理解する読解力の養成が基本となることを肝に銘じておきたい。

【古文】

本文をしっかりと読み取ろう

第4問 問4

本文を解説する文章を読みつつ、本文の内容を確認する

問4は、本文の出典である作品と本文を解説する現代文の文章を読み、その文章の中で行数によって示された本文の一部分の内容を考える問題である。古典文学では、先行する作品の趣向や古歌の一部を取り入れつつ、新しい物語を構築することがある。共通テストでは、一つの作品が、先行するどの作品を下敷きとして描かれているのかを示しながら、問題を解かせる可能性が考えられる。

今回の問4は、中世に成立した『夢の通ひ路物語』が、『源氏物語』をはじめとするさまざまな先行の作品を下敷きにしていることを解説しながら本文の内容を読み取らせる問題で、読み取るべき「古文」の作品は一つだけであったが、今回のような形でも、示される「古文」が複数の作品であっても、「古文」を読むという作業は同じで、特別な解き方が必要なわけではない。文法や単語にしたがいが、本文を正しく読解できれば正解を選べるはずである。ただ(ii)のように、和歌の読解を問われると、「和歌は難しい」とあきらめてしまう人もいられるかもしれない。しかし、共通テストでは和歌が出題される可能性は高く、しっかりと学習しておきたい。文法や単語にしたがいきちんと訳す訓練をすることはいうまでもないが、「掛詞」などを問われることもあるので、修辞法についても正しく学ぶことを心がけよう。

【漢文】

文法の知識と文意を根拠にして正しい読み方を判断しよう

第5問 問3

書き下し文の問題

まず、句頭の「願」に着目する。会話部内の句頭に「願」がある場合は、一般に願望形として「どうか一させてください・してください」の意味で「願はくは一せん・せよ」と読む。②・④は誤りで、①・③・⑤が正しいと判断する。次に、「勿」に着目する。「勿一」は否定形で「一勿し」と返読する。返読していない⑥は誤りと判断する。最後に、「以」に着目する。前置詞「以」は、「以一動詞」の形で「一を以て動詞す」と読むが、目的語「一」が省略された「以動詞」の場合は「以て動詞す」と読む。傍線部は、前置詞の目的語が省略されているので、返読している①は誤りで、③が正しいと判断する。①・③・⑤のどれが正しい読みであるかは、文意から判断してもよい。①、⑤を直訳すると、それぞれ「どうか陛下は心配して、もってしないでください」、「どうか陛下がいなくて心配しないでください」となり、意味が通らないことから誤りと判断する。一方、③は、「どうか陛下は心配しないでください」となり、意味が通るうえに、文脈上もふさわしい内容であることから正しい読みと判断する。書き下し文の問題では、文法や重要語の知識と文意を根拠に解くことが必要である。句形や文構造などの文法や重要語の知識を習得するとともに、文意から正しい読みを選ぶという解法を身につけるべきだ。

理科

【物理基礎】

【法則に基づく思考・判断をするように心がけよう】

第1問 問1 重力のみによる2つの物体の運動 2物体の正しい $v-t$ グラフの選択

共通テストでは、日常生活と関連する物理現象や物理実験を題材にした問題や、式計算をそれほど行わず、原理や法則をもとに定性的に考える問題などが多く出題される。本問は、重力のみを受けて運動する2物体の $v-t$ グラフを問うた。物理ではグラフで考えることが多い。グラフは情報が視覚化され、大変有用であるが、同時に情報を「なんとなく」「雰囲気で」とらえてしまい、誤った認識に陥ることも多い。正答率は2割弱と大変低いものであった。

自然科学は、自然界の原理や法則を発見し、またそれに基づき自然現象を判断する学問である。根拠があいまいなまま「なんとなくこうなりそう」という取り組み方では、得点につながらないのはもちろん、そのあとの学習にも支障が出る。たまたま当たった・外れたということにならないよう、自分の判断を検証していくことが大切である。

本問では、①の誤答が多かった。「衝突する」というイメージでグラフがぶつまっているものを選んだのであろう。しかし縦軸は「位置」ではなく「速度」である。速度の1秒あたりの変化率は加速度であり、2体とも重力のみを受けて運動しているため、加速度は共通で重力加速度である。よって、2つのグラフの傾きが同じで、負で一定値である。このように、「なんとなく」ではなく「根拠のある判断」をしていこう。言い換えると、そういった「根拠を探す」ことが肝要である。

物理基礎は、かなり難易度を抑えて作成されている。複雑で難しい問題はあまり出題されないだろう。しかし、段階的な思考や複数作業が必要な問題はいくつか出題される。そういった問題で「雑な思考」をしてしまうと、間違えてしまう。雑な思考にならないためには、頭の中だけで考えず、「書く」「描く」という作業が有効である。これらは、計算だけでなく、思考を深め、論理的に考える力を育てることに極めて有効である。「書く」「描く」ことで「なんとなく考える」から「論理的に、正確に思考する」ことを身につけてほしい。

【物理】

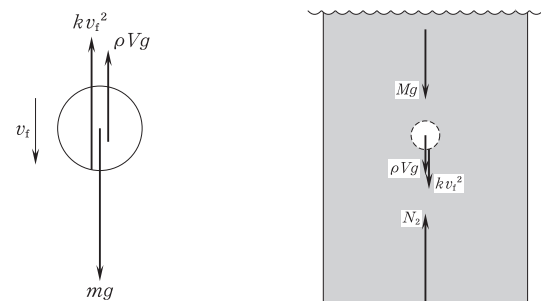
グラフ選択の問題では、数式を根拠に選択しよう！

第2問 問4 力のつり合い・運動方程式

指示値の変化量と物体の質量の関係を表すグラフを選択する問題

共通テストでは、正しい図やグラフを選択する問題が必ず出題されているが、このタイプの問題に対して苦手意識をもつ受験生は多く、正答率が低い問題の定番となっている。誤答の原因の多くは、明確な根拠がないままに、「なんとなく」で選択してしまうことである。共通テストでは、一見すると定性的な問題のような図選択問題でも、きちんと立式し、計算をしなければ正解を選択できない問題がほとんどであることに注意したい。

今回の問題では、「物体が一定の速さ(終端速度)で落下している」ことに注目し、加速度が0であることから、物体と水・水槽について運動方程式および力のつり合いの式を立てることにより、正解となるグラフを表す数式を得ることができる。具体的には、次図のように物体及び水・水槽にはたらく力を図示し、立式することが必要となる。得られた式をもとに、糸を切る前後の電子天秤の指示値をそれぞれ数式で表現することにより、縦軸の切片が負で傾きが一定の直線を表す数式が得られる。



このように、図やグラフを選択する問題は共通テストにおいて特徴的な問題だが、取り組み方は他の通常の形式の問題を解くのと変わらない。状況を図示した上で立式し、正解を選択する根拠をはっきりさせていくことが重要なポイントである。これからの共通テストに向けた演習でも意識しておいてもらいたい。

【化学基礎】

グラフから反応の量的関係を読み取る力を身につけよう。

第1問 問9 化学反応の量的関係

作図により過不足なく反応する金属の質量をグラフから読み取る力が必要な問題

グラフを用いた問題について、はじめから作図されている問題は比較的解答しやすいが、数値が表に与えられており方眼紙を用いてグラフを作図する問題や、本問題のようにグラフにプロットがあるがそれらの点を理解して結ぶ問題は、過不足なく反応する点が判断しにくいいため解答しにくい。本問題のようなグラフを用いた化学反応の量的関係に関する問題は、共通テストでも多く出題されるため、きちんと理解して得点源としておきたい。

第1問の問9は、グラフのプロットしている点を結ぶことからではなく、式(1)から得られる情報(化学反応の量的関係)を確認することが重要である。まず、XとHClの反応では、物質量の比が1:2で反応することを確認する。次に、Xが少なく、反応後にHClが残るときは、加えたXの質量と発生したH₂の物質量は比例するので、グラフは傾きをもつ直線となる。また、Xが多く、反応後にHClが残らないときは、発生したH₂の物質量は一定となるので、グラフは水平な直線になる。したがって、これらの条件から二つの直線の交点が過不足なく反応する点を求めることが重要である。

aは、過不足なく反応するときのXの質量が6gであること、発生したH₂の物質量が0.25molであることより、Xの原子量を求めることができる。bは、HClのすべてが反応すると、発生するH₂の物質量が0.25molであることに気づけば、塩酸中のHClの物質量を求めることができ、モル濃度を計算することができる。

共通テストでは、短時間で多くの問題を処理する能力が要求され、問題によっては問題文から化学的内容を読み取る思考力も要求される。こういった問題に対応するために、まずは教科書の基本事項を確認しよう。そして、問題演習を通してその知識を定着させていくとともに、問題文を読んだときにすばやく問題の意図を読み取る練習もしておこう。

【化学】

情報を整理・統合し、原理・法則と結びつけて考えよう！

第2問 問4b 二段階中和

CO₂を通じる前後について、各中和点までの塩酸の滴下量の大小関係を考える問題

Na₂CO₃水溶液(CO₂を通じる前の水溶液)20mLを塩酸で滴定した場合、滴定開始から第一中和点までは式(1)の反応が、第一中和点から第二中和点までは式(2)の反応が起こる。このときの滴定曲線は図1のようになり、滴定開始から第一中和点までの塩酸の滴下量は10mL、滴定開始から第二中和点までの塩酸の滴下量は20mLである。

上記と同じNa₂CO₃水溶液20mLにある量のCO₂を通じたところ、式(3)の反応が起こり、Na₂CO₃とNaHCO₃の混合水溶液(CO₂を通じた後の水溶液)が得られた。この水溶液を塩酸で滴定する場合も上記と同様に、滴定開始から第一中和点までは式(1)の反応が、第一中和点から第二中和点までは式(2)の反応が起こる。

Na₂CO₃の物質量は、CO₂を通じる前の水溶液よりも通じた後の水溶液の方が少ないため、滴定開始から第一中和点までの塩酸の滴下量は10mLより小さい値になると判断できる。

一方、第二中和点において、Na原子を含む物質はNaClのみであることに着目すると、第二中和点の水溶液に含まれているNaClの物質量は、滴定開始時の水溶液に含まれていたNa原子の物質量に等しく、また、滴定開始から第二中和点までに加えたHClの物質量とも等しいことがわかる。CO₂を通じる前後で、水溶液に含まれているNa原子の物質量は変化しないので、滴定開始から第二中和点までに加えるHClの物質量も等しく、滴定開始から第二中和点までの塩酸の滴下量は20mLになると判断できる。以上より、正解は⑥になる。

共通テストでは、問題文や与えられた図・表から必要な情報を整理・統合し、化学の知識や原理・法則に基づいてその内容を的確に把握・分析したうえで、原理・法則を適切に運用して解答を導く、思考力を要する応用問題が出題されるため、教科書に記載された重要事項をムラなく身につけることが不可欠である。また、身につけた知識や原理・法則を適切に運用する力も必要である。そのためには、学習の定着度を常に「可視化」することが重要で、問題集、定期試験、模試などを有効に活用してもらいたい。問題演習を積み重ねることで、化学に関する理解を深めるとともに、問われている内容を的確に判断し、原理・法則を適切に活用する力を養っていこう。

【生物基礎】

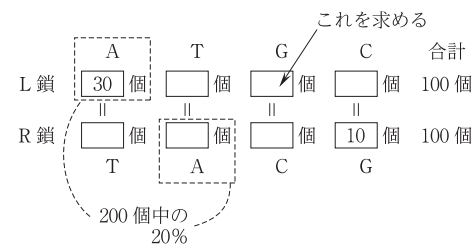
DNAを題材とした頻出の計算問題の解法を習得しよう。

第1問 問4

DNAにおいて、1本鎖中の塩基の数と2本鎖中の塩基の割合を用いて各塩基の数を計算する問題

生物基礎では計算問題が出題される場合があり、とくにDNAの塩基組成を題材にした計算問題は頻出である。第1問の問4を正解できなかった受験生は、まず、情報を整理するためにメモをしたり図を描いたりする必要がある。問題冊子に何の痕跡も残っていないようであれば、生物基礎を知識で解答するだけの試験と考えているのではないだろうか。しっかりと手を動かしながら解答するようにしよう。

まず、100塩基対の2本鎖DNAは、100塩基の鎖が2本組み合わせられたものである。2本鎖DNAの一方の鎖(L鎖)にはAが30個含まれており、他方の鎖(R鎖)にはGが10個含まれている。2本鎖DNAに含まれる塩基の総数に占めるAの個数の割合は20%である。以上をもとに、L鎖に含まれるGの個数が問われている。この設問の内容は次のようにまとめることができる。



L鎖の塩基とR鎖の塩基は、相補的な組み合わせで記してある。たとえば、R鎖のGが10個であるので、L鎖のCは10個である。また、200個中の20%がAの総数であるので、Aの総数は40個であり、R鎖のAは10個と求められ、L鎖のTも10個と求められる。正解できたかどうか大切であるが、普段から、問題に与えられた情報を自分なりにわかりやすくまとめる努力をすることが大切である。

【生物】

知識を必要とする考察問題に慣れよう！

第5問 問5・6 呼吸と嫌気呼吸

呼吸や嫌気呼吸で発生する二酸化炭素量や合成される ATP 量、消費されるグルコース量を考察する問題

各酸素濃度における二酸化炭素放出量と酸素吸収量について示した図1にもとづき、問5では呼吸と嫌気呼吸のそれぞれで発生する二酸化炭素量の比較を、問6では大気中の酸素濃度のときと比較して、酸素濃度が10%のときに消費されるグルコース量や合成される ATP 量がどのように変化するのが問われています。これらの設問ではグルコースを呼吸基質としたときの呼吸の式を、嫌気呼吸については、問題文に「酵母が行う発酵と同じ反応」とあることから、酵母が行うアルコール発酵の式を把握しておく必要があります。問5では、グルコースを呼吸基質としたときの呼吸と嫌気呼吸(アルコール発酵と同様の反応)の式について、「呼吸で発生する二酸化炭素量と吸収する酸素量が等しい」、「嫌気呼吸では酸素は吸収せず二酸化炭素を発生する」ことに着目し、図1の酸素吸収量を呼吸で発生する二酸化炭素量と読み替えて各選択肢の正誤を判断します。問6では、呼吸と嫌気呼吸の式を直接利用して計算します。また、計算については、図1が大気中の酸素濃度の条件で放出する二酸化炭素量を100とした相対値で示されていることから、このときに消費されたグルコース量を基準として、計算をするという工夫も重要です。

共通テストでは、知識を問う問題と問題文や実験データなどを読み取り考察する問題があり、考察する問題が占める割合が高くなっています。また、考察する問題の中でも、知識にもとづいて考察する問題が多く出題されています。今回のこれらの問いでは、呼吸やアルコール発酵の式が把握できていないと正確な考察ができず、また、その式をどのように考察に生かすのかも重要です。

共通テストには「正確な知識」、「正確な読解力」、「知識を応用する力」が必要になります。今回、この問題でつまづいてしまった人は、知識が不足していたのか、知識はあったが問題に生かすことができなかったのかを確認しましょう。知識が不足していたという人は、知識を定着させようとして改めてこの問題を解き直すともよいでしょう。知識はあったが問題に生かすことができなかった人は、解説を熟読してどこが気づけなかった点なのかを明確にしておきましょう。

【地学基礎】

作図をするときは、作成する図が何を表すのかを把握しよう！

第1問 問4 震央の位置

震央の位置を決定する作図の理解を問う問題

本問のように作図した図の一部が、それぞれ各選択肢に示される中から正解を選ぶためには、作図する図の要素が何を示しているのか理解する必要があります。

本問の場合は、問4の問題文の「地震 X の震央は、ある線上に存在することが推定できる」との内容から、震央が一つに決定することができない状況であると判断しなければならない。本来、震央を一つに決定するには、少なくとも観測地点が三つ必要である。本問では、観測地点が地点 A と地点 B の二つしかないため、震央を決定する作図も不完全なものとなる。そこで、作図の各段階は本来どのような考えに基づいて行われていたのかを理解していることが、正解を選ぶ近道になる。教科書などに記載されているように丁寧な文章で覚えておく必要はないが、作図の方法を示した図を「形」として覚えるだけでなく、作図する際に描いた線が何を示しているのかについて理解してほしい。まずは、学習の手引きをしっかりと読み、理解してほしい。

また、学習が進み、知識が身につくと、自分の能力に自信が出て問題を解くスピードを上げようと思うかもしれないが、制限時間さえ守れば、焦る必要はない。自らの知識を過信することなく、問題の冊子を「汚す」ことを心がけてほしい。

【地学】

地学現象をイメージできるようにしよう！

第5問 問4 太陽の自転

太陽の自転に伴う黒点の移動を考える問題

本問は、太陽の自転に伴って黒点がどのように移動していくかを考える問題である。まず、基礎知識として、太陽の自転方向と周期を知っておく必要がある。また、緯度と自転周期の関係も知っておかなければならない。太陽は北側から見て反時計回りに自転している。自転周期はおよそ1か月である。また、低緯度ほど自転周期はやや短く、高緯度ほど自転周期はやや長くなる。これらの基礎知識を用いて、太陽面での黒点の移動をイメージできるかがポイントとなる。黒点は太陽の自転とともに移動し、5日間では、一周の6分の1程度、つまり、経度にして約60度移動する。地球から見ると、自転方向は東から西なので、西に向かって約60度移動し、低緯度の黒点の方が自転周期は短いので、移動した角度は大きくなっている。これで正解を導き出せる。一応、これだけで解けるが、もう少し深く理解しておきたい。まず、地球上の方向と自転の方向の関係である。本問のように太陽を考えるときは、南の空に太陽があると考えるとわかりやすい。南の空の太陽を考えると、太陽の左側が東、右側が西であり、問題の図1と一致する。また太陽の上側が、天頂を通り北となることもわかるだろう。太陽の自転方向は北側から見て反時計回りなので、黒点は左から右(東から西)へ移動することになる。自転周期は低緯度の方が短いので、早く回転し、回転する角度が大きくなる。このあたりも間違いやすいので落ち着いて考えるようにしよう。

本問を間違えた人は、まず、必要な基礎知識が身についたかを確認しよう。その上で、基礎知識から実際の地学現象をイメージできたかを考えてほしい。また、必要な基礎知識をまだ学習していない人も、もし基礎知識があれば、知識を応用して正解を導くことができたかを考えてみよう。地学の入試問題では、このような地学現象をうまくイメージする必要がある問題がよく出題される。よく復習をして、このような問題にも慣れておこう。

地理歴史

【地理総合】

第二次世界大戦後の世界や日本の歴史を復習しよう

第1問 問4

国連の加盟国数の推移と時代背景

本問は、国連の加盟国数の推移を示したグラフ中の特に増加数が多かった3つの時期とそれらの時期の国連をめぐる情勢について説明した文章との正しい組合せを答える設問である。正答率はきわめて低かったが、約半数の受験生は1960年代初頭のアフリカの国々の独立により加盟国数が増加したことは把握できていたようだ。しかし、東西冷戦の終結により、ヨーロッパ東部やバルカン半島の大規模な政治的変動に伴い、ヨーロッパや中央アジアに新たに独立した国家が誕生したことは把握できていなかった。地理の学習には歴史の知識も必要である。既習であれば歴史総合、そうでなくても中学校社会科における第二次世界大戦後の世界や日本の歴史について復習しておこう。

資料を比較検討しよう

第2問 問4

岡山県倉敷市を流れる高梁川の治水工事

本問は、岡山県倉敷市を流れる高梁川の治水工事に関する設問である。P～Rの月別の日降水量別平均降水日数の判定において、「治水工事の設問だから日降水量別平均降水日数も多いに違いない」と考えたであろう受験生が多く、瀬戸内に位置し降水日数が少ない倉敷市を選べなかった受験生が多数を占めた。共通テストでは、受験生にとって初見の資料が多用される。この設問もそれにならぬ日降水量別平均降水日数の資料を用いたが、受験生は倉敷市のこのデータを知らなくても、瀬戸内が冬の北西季節風に対して、夏の南東季節風に対して、山地の風下側に位置するため「年降水量が少ない」という一般的な知識をもとに比較してPを選ぶことが求められた。受験生は選択肢から正答を選ぶ際に消去法を用いることを「知識不足によるもの」と決めつけ、忌避する傾向にあるが、知識を用いて与えられた資料を比較検討することは一般的な解法である。今後過去問などの演習において統計資料を比較検討することに慣れておいてほしい。

【歴史総合】

地域や時代を意識した学習をしよう

第1問 問1・2

19世紀の世界の情勢に関する理解を問う問題

2025年1月に実施された新科目の「歴史総合」であるが、本試験では、2022年に大学入試センターが発表した試作問題に比べて、世界史の知識を問う問題が多く出題された。来年度以降の出題については不明な点が多いが、高得点を獲得するためには世界史分野についてもしっかりと学習しておく必要がある。問1では、ヴィクトリア朝期のイギリスの政策について問うた。正解以外の選択肢は、いずれも同時代のフランス、オランダ、ロシアについて述べたものである。問2では、1800年頃(第一次産業革命期)におけるエネルギー源、パナマ運河の開通の時期が理解できているかがポイントとなる。このような問題に対処できる学力を養成すべく、教科書に掲載されている基本事項について復習してほしい。復習の際には、「地域」や「時代(時期)」を意識しよう。

グラフの読み取りに慣れよう

第2問 問7

グラフから考えたことをまとめたメモの正誤を問う問題

この問題は、グラフの読み取りと、教科書で学んだ知識や提示された資料の説明の内容を総合して、2人のメモの正誤を判断する問題である。吉田さんのメモについては、「日本が資料の協定に正式に加盟した頃」が、資料の説明から1955年であると読み取ったうえで、グラフの該当部分を見る必要がある。橋本さんのメモについては、「グラフの期間」が1948～65年であるという読み取りと、「アメリカ合衆国が北ベトナムへの爆撃(北爆)を開始」したのが1960年代半ば(1965年)であるという知識を組み合わせる。グラフ問題を苦手とする受験生が多いうえ、消去法が使えない形式の問題なので、正答率は低くなりがちだが、2025年の「歴史総合」本試験でもグラフ問題は出題されており、来年度も出題されることは確実である。日々の学習において、グラフに慣れ親しんでおこう。

【地理総合、地理探究】

小地形の形成過程を理解して覚えるとともに、分布との関連にも注目しよう

第3問 問2

日本の特徴的な地形

本問は、日本の特徴的な地形がみられる範囲の地理院地図を読み取り、ヨーロッパにおける同じ過程で形成された地形の分布との組合せを答える設問である。正答率はきわめて低く、正答であるリアス海岸の地形名の由来となったスペイン北西部ではなく、ノルウェー西岸のフィヨルドを選択した受験生が約半数もいた。中緯度に位置し温暖な日本には飛驒山脈などの日本アルプスや北海道の日高山脈などの山岳地域にカール、ホーンなどの氷河地形はみられるが、海岸に形成されるフィヨルドはみられない。このように、この学習分野では、小地形の形成の背景を理解して覚えるとともに、分布との関連にも特徴があるので、復習する際に注目してみよう。

統計問題は、対象となっている国・地域の経済の発展の程度や変化、国家・地域間の関係は距離と歴史で考えよう

第4問 問5

訪日外国人数の上位国と延べ宿泊者数が多い都道府県

本問は、韓国、台湾、中国からの訪日客数の推移と、これらの国・地域からの訪日客が日本のどの都道府県で宿泊しているかを問うたものである。訪日客の推移では、2010年以降に著しく増加しているナを中国と判断する。残る韓国と台湾では、訪日客数の推移では判断が難しいので、延べ宿泊者数が多い都道府県の資料をみると、二は沖縄県、又は福岡県が上位に位置していることが読み取れ、沖縄県に距離が近い二は台湾、福岡県に距離が近い又は韓国と決める。本問は平均的な出来であったが、約25%の受験生が国・地域の判定を誤っていた。統計問題においては、設問で扱われた統計を知らなくても、対象となっている国・地域の経済の発展の程度や変化、国家・地域間の関係は距離と歴史を考慮するとよい。

なお、地理総合については、【地理総合】の学習対策を確認してほしい。

【歴史総合、日本史探究】

諸資料を用いた問題に慣れよう

第2問 問3, 第3問 問3・4

諸資料を読解・考察する問題

第2問の問3は、律令制下の公地公民制について史料を参照しつつ考える問題である。Xについては、史料に「男に二段。女は三分が一減ぜよ。」とも明記されていることから、これを読み取ることができれば誤文と判断できる。一方、女性に班給される口分田が「男性の3分の2」であるという知識を前提として誤文と判断することも可能である。本問ではどちらの方法でも正解にたどり着くことが可能だが、共通テストでは、諸資料に必ず目を通してから解答するようにしてほしい。Yについては、(注1)の「1年おきに耕種する田」であることと、史料の「倍して給え」(2倍の面積を班給せよ)との内容の両方をふまえて考え、生産力が低く隔年で2倍班給することと規定されている易田のあり方を推測したい。史料そのものに記されている情報と、その周辺(今回は注)の情報を総合して思考することが求められる。

第3問の問3は、弥生時代の集落と水田のあり方の変遷について、図1とまとめの内容を参照して考える問題である。弥生時代の集落の具体的な様相について、事前に習得していた知識はなかったであろうが、まとめの「水田域と集落の関係」の内容を慎重に図1にあてはめていけば、正解を導くことはさほど難しくなかったはずである。共通テストでは、本問のようにまとめを参照せよなどの明確な指示がなくとも、設問の前後の情報も参照して解答するよう注意したい。

第3問の問4は、長原古墳群の構成の変遷がもつ意味について考察する問題である。まず、古墳の大規模化が被葬者の権力の拡大を意味することを前提として考える必要がある。これを前提にXを考察すれば、図2の「1期」から「2期」にかけて長原古墳群の古墳の規模が縮小している一方、古市古墳群の古墳の規模が拡大している。ここから、古市古墳群の被葬者の集団に対する長原古墳群の被葬者の集団の地位が相対的に低下していることが読み取れよう。Yは、図2の「2期」から「4期」にかけての方墳すなわち図中の「■」に注目すれば、7m以上および7m未満の「■」は減少傾向にあることから、誤りと判断できる。

なお、歴史総合については、【歴史総合】の学習対策を確認してほしい。

【歴史総合、世界史探究】

読解力・応用力・思考力を身につけて、差をつけよう

第5問 問6

設定された主題に関する問題

第5問は、設定された特定の主題を踏まえて、生徒たちが資料を基に考察を行い、レポートにまとめるという世界史探究の授業が想定されているが、その主題が何であるかは伏せられている。問6は、二つのレポートの内容から、どのような主題が設定されていたのか適当な内容を選んだうえで、さらにその主題を追究するためにはどのような世界史上の出来事が最も適当なのかを問う問題で、第5問全体を通した理解が試されている。まず、二つのレポートの内容をしっかりと読み込んで共通する内容を考えよう。Aのレポートから、トトメス4世が神の権威の下でファラオに即位したこと、Bのレポートから、神聖ローマ皇帝が教会組織を統制下に置いて帝国統治を行ったことを読み取れば、政治的支配者が宗教を利用して政治権力を高めようとした共通性を見出すことができ、設定された主題としては、あが適当となる。この選択肢を前提に次に進むので、ここで選択肢を誤らないよう正確な読解力が求められる。続いて、その主題をさらに追究するための出来事としては、政治的支配者と宗教との関係について述べているYが最も適当だと判断できる。念のため、X・Zが政治的支配者と宗教の関係には当てはまらないことも確認して、最終的な解答を確定しよう。

以上のように、この問題は、具体的出来事から共通性を読み取り、その共通性を持つ別の具体的出来事を想起するという、読解力・応用力・思考力を総合的に試すもので、表面的な知識の暗記だけでは正解できない。共通テスト「歴史総合、世界史探究」初年度となった2025年1月の本試験でも、本問と同様の形式の主題学習に関する問題が出題されているので、高得点を狙うならこのような本質的理解を問う問題の対策を十分におこなねばならない。しかし、どんなに難しくそうに見えても、基本事項の応用にすぎないことも忘れないでほしい。焦ることなく、今から一つ一つ丁寧な学習を積み重ねていけばよい。

【歴史総合】の学習対策も確認しておこう。

公 民

【公共】

教科書を用いて多角的な見方・考え方を学ぼう

第3問 問1

設問文に示された二つの考え方に当てはまる発言を判断する問題

この設問は、「行為の正しさを、社会に幸福や豊かさをもたらすかどうかで判断する」という考え方Aと、「人間には従うべき義務があり、それに基づいて行動することが正しい行為である」とする考え方Bに分けた場合に、前者の考え方Aに当てはまる発言内容を選び取るというものである。「公共」の教科書の中には、前者の考え方Aを目的論(帰結主義、功利主義)、後者の考え方Bを義務論として説明しているものもある。

前者の考え方Aに分類されるのはY1とY4であり、正解は◎となる。Y1の発言は、社会に幸福がもたらされるかどうかによって自由貿易協定(FTA)の締結の善し悪しを判断するものであり、Y4の発言は、社会に豊かさがもたらされるかどうかによって政府開発援助(ODA)の善し悪しを判断する視点に立つものである。なお、後者の考え方Bに分類されるのは、Y2とY3である。Y2とY3の発言はいずれも、「人間には従うべき義務があり、それに基づいて行為することが正しい行為である」という視点に立つものと言える。

共通テストでは、示された考え方(立場、意見など)と合致する発言の組合せを選ばせたり、示された考え方が表や図の中のどの部分に位置するかを判断させたりする形式の設問がよく出題されている。教科書学習を通じて、多角的な見方・考え方を学ぶことは有効である。また、類似の形式の設問を対策問題集や模擬試験などで演習することも重要である。しっかりと対応できるよう訓練を積み重ねよう。

【公共、倫理】

新傾向の形式に慣れよう

第6問 問8

主張とその論拠の組合せを問う問題

今回の模試では、ある問題で選んだ選択肢に応じて次の問題の正解が変わってくるという連動形式の問題を出題した。第6問の問8がそれで、まず(1)でどのような場合にウソが許容されるかについての主張を3つの選択肢から選び、(2)ではその3つの選択肢に対応した論拠をそれぞれ4つの選択肢の中から選ぶというものであった。(1)でどの主張を選んで、(2)にはそれに対応する論拠が用意されている。したがって、まずは(1)で、自分自身が実際に抱いている意見を選び、その後その意見に相応しい論拠を探すという順番で解くのではなく、主張と論拠を見比べながら、両者の組合せとして最も確実であると思えるものを同時に選ぶ、というのが適切な解法になるだろう。

この形式は、過去に「平成30年度試行調査問題」と「令和7年度試験の試作問題」で取り上げられていたが、本番の「倫理」の問題としては、2025年度の「公共、倫理」本試第5問の問5で初めて出題された。したがって、「倫理」対策として過去問を解いていただけの受験生のなかにはこうした形式を見たことがなく、本番当日に初めて目にして戸惑った者もいただろう。特殊な形式とはいえ、一度でもこの形式を経験してその趣旨を把握していた受験生にとっては、それほど難しい問題ではない。しかし、初見では問題の趣旨を把握するのに少し時間をとられることになる。そして、そのような時間のロスが、共通テストというボリュームのあるテストを解くうえでは、解ける問題数の差を生んでしまうことになる。

その場の思考力や理解力を重視している共通テストでは、形式についても様々なヴァリエーションを採用する傾向にある。したがって、教科の内容に習熟することはもちろんだが、なるべく多様な出題形式に接しておくことが共通テスト対策の一つとして重要になっている。河合塾では、出題される可能性のある様々な形式を模試や教材でできる限り取り上げている。それらをフルに活用することが共通テスト攻略の近道である。

【公共】の学習対策もご確認ください。

【公共、政治・経済】

数値資料の特徴を把握する学習を積み重ねていこう

第6問 問5

グラフを示しつつ歴史的な出来事や語句の理解力を試す問題

この設問は、日本経済の動向にかかわる二つの数値資料(いずれも経年変化を示すグラフ)に着目した三人の生徒の会話文を読み、会話文中の三か所の空欄に入る語句を判断するというものであった。

三つの空欄に入る語句の組合せとして最も適当なものは⑦である。空欄アは、歴史的な出来事が把握できているかどうかを試すものであり、入る語句として適当なものは、Bの「第一次石油危機」である。経年変化を示すグラフを用いた設問では、大きく数字が変化している箇所に注目させ、その背景となる出来事を判断させることがある。教科書を用いて歴史的な出来事の年号や年代の把握に努めたい。空欄イは、第一次所得収支に計上される具体例について理解できているかどうかを確認するものであり、入る語句として適当なものは、Dの「利子や配当金」である。国際収支の各項目に計上される具体例を判断できるよう、教科書でチェックしておこう。空欄ウは、語句の意味・内容を把握できているかどうかを試すものであり、入る語句として適当なものは、Eの「産業の空洞化」である。会話文中の「企業が国内の工場を海外に移転したこと」によって、「国内では、生産力の低下や雇用機会の減少など」が懸念されたという表現から判断したい。なお、空欄には入らないAの「キューバ危機」、Cの「株式や債券の取引」、Fの「産業構造の高度化」という語句についても、解説の手引きでそれぞれの内容把握に努めよう。

共通テストでは、グラフや図表などの数値資料を用いた様々な設問が出題される。教科書に掲載されている数値資料に目を通すと同時に、その特徴(ある年を境に急増・急減している、ある国のある項目が突出しているなど)の把握に努めよう。教科書には掲載されていない数値資料が出題されることもある。そうした数値資料への対応については、対策問題集や模擬試験の演習を通じて、特徴を見抜く訓練を積み重ねていくとよいだろう。

【公共】の学習対策もご確認ください。

【情報 I】

基数の変換について理解しよう！

第1問 問3 2進法→10進法変換アプリ

変換アプリの作成という場面設定のもと、2進法から10進法への基数変換について、単なる計算問題ではなく理解を問う問題として出題した。

オ～キ 4桁の2進法の数(abcd)が次式により10進法の数Xに変換されることを理解していることが前提となる。

$$X = a \times 2^3 + b \times 2^2 + c \times 2^1 + d \times 2^0 = a \times 8 + b \times 4 + c \times 2 + d \times 1$$

このことと図1から、アプリ1では、

$$B4 = A4 \times 8, B3 = A3 \times 4, B2 = A2 \times 2, B1 = A1 \times 1$$

$$\text{Answer} = B4 + B3 + B2 + B1$$

であることがわかり、オ、カが決まる。キは「誤りのある計算式を探す」という問題で、①～④の4つの可能性が挙げられている。①～④のそれぞれを、図2の4つのパターンについて確認していくのは効率が悪い。上記の関係が理解できていれば、B4～B1からAnswerを求める式に誤りが無いことが図2からすぐにわかり、①、④が排除できる。また、①は基数変換の正しい処理であり、「誤った式」にはなり得ないので、正解が②であると容易に判断できる。

ク アプリ1を、3桁の小数部分も扱えるように拡張するという設定で、2進法の小数→10進法の小数の変換を問う問題となっている。ここでは、2進法の小数(0.xyz)が次式により10進法の小数Yに変換されることを理解していることが前提となる。

$$Y = x \times 2^{-1} + y \times 2^{-2} + z \times 2^{-3} = x \times \frac{1}{2} + y \times \frac{1}{4} + z \times \frac{1}{8} \\ = x \times 0.5 + y \times 0.25 + z \times 0.125$$

整数部分は先述のように扱えばよいが、解答に際しては、選択肢の小数点以下がすべて異なることに着目すると解答しやすい。

$$1 \times \frac{1}{2} + 0 \times \frac{1}{4} + 1 \times \frac{1}{8} = 0.5 + 0 + 0.125 = 0.625$$

小数部分が625となっているのは②だけである。

本問はプログラミングの問題としても扱えるテーマとなっている。プログラミングの練習としてコードを書いてみるのもよい練習になるだろう。

お詫びと訂正

学習の手引き『国語・地理歴史・公民』『地理総合』に以下のような誤りがありました。お詫びするとともに訂正いたします。

●学習の手引き『国語・地理歴史・公民』

「地理総合」P.55 **【解答・採点基準】** 第3問

【誤】 問4 解答番号12 正解 ①

↓

【正】 問4 解答番号12 正解 ③

「地理総合」P.60 **【解説】** 第3問

【誤】 問4 解答番号12 正解 ①

↓

【正】 問4 解答番号12 正解 ③

お問い合わせ先一覧

■模試について

- ①個人でお申し込みの方 河合塾模試受付センター 0120-977-558
②学校を通じてお申し込みの方 河合塾模試受付センター 0120-717-558
③河合塾生の方 [高校グリーンコース生専用フリーダイヤル] 0120-751-577

*河合塾模試受付センター／高校グリーンコース生専用フリーダイヤル（12：00～19：30 日曜、祝日および12/31～1/3は受付を行いません。）

■河合塾 営業部

受付時間 9：00～17：00（土日祝休み）

北海道営業	〒060-0809 札幌市北区北9条西3-3	（河合塾札幌校内）	TEL(011) 708-8584
	【担当地区：北海道】		
東北営業	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-27	（河合塾仙台校内）	TEL(022) 215-7581
	【担当地区：青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島】		
関東営業	〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-67-2	（河合塾大宮校内）	TEL(048) 647-9581
	【担当地区：茨城・栃木・群馬・埼玉・新潟・富山・長野】		
首都圏営業	〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-2	四谷グローバルスタディスクエア6階	TEL(03) 6811-5532
	【担当地区：千葉・東京・神奈川・山梨】		
中部営業	〒464-8610 名古屋市千種区今池2-1-10	（河合塾千種校内）	TEL(052) 735-1511
	【担当地区：岐阜・静岡・愛知・三重】		
近畿営業	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-13-1		TEL(06) 6372-5731
	【担当地区：石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・岡山・徳島・香川・高知】		
中四国営業	〒732-0057 広島市東区二葉の里1-1-50	（河合塾二葉の里オフィス2階）	TEL(082) 264-4581
	【担当地区：島根・広島・山口・愛媛】		
九州営業	〒810-8619 福岡市中央区渡辺通4-2-11	（河合塾福岡校内）	TEL(092) 714-5711
	【担当地区：福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄】		